

第 1 回 上 牧 町 総 合 教 育 会 議

議 事 録

日 時	平成 27 年 8 月 6 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 3 時まで
場 所	上牧町役場 2 階 第 2 会議室
出 席 者	今中町長、松浦教育長、宮城委員、奥田委員、小泉委員、東谷委員
事 務 局	藤岡教育部長、中川教育総務課長、塩野社会教育課長 爲本総務部理事、松井課長補佐、野村主査
次 第	1 開会 2 町長あいさつ 3 案件 (1)「上牧町総合教育会議」の設置の趣旨及び目的並びに今後の進め方について (2)地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定による「教育大綱」の策定方針について 4 その他

議事概要

◆町長あいさつ

- ・今年上牧町では、「総合計画」や「地方人口ビジョン及び総合戦略」を策定しなければいけないが本計画にも連動することなので、しっかりと策定していきたい。
- ・国や県においても、子どもたちの規範意識の低下、体力の低下、学力の低下が叫ばれている。県の教育サミットのなかでも、それらをどのように向上させていくのかが大きな課題である。
- ・それぞれに理由があるので、一つずつ紐解いて理想論だけの計画をつくることは無意味なことであるので、統計的に調査したうえで、最終的な計画を策定していきたいと考えている。

◆事務局（政策調整課）から「上牧町総合教育会議」の開催についての経緯説明

◆意見交換

東谷委員 この「総合教育会議」については、町長が主催をするという点がこれまでと変わっている部分である。滋賀県の事件以来でてきた話で、町長が参画をして考え方を示すというのが趣旨である。

今中町長 この会議の窓口としては、政策調整課が担当して、内容やこれから進めていく事柄については、教育委員会が事務局として担当していくことになる。最終的に教育大綱をまとめ上げていくときに、協議しながら総合計画ともリンクしないといけないし、地方人口ビジョン及び総合戦略のなかでも子どもたちをどうしていくかということも考えていかなければいけない。

- 東谷委員 教育大綱を見直していくなかで、4年に1度の改正を行うのか、長い期間で継続していくものなのか、今の町長の意見で教育委員会の意見を取り入れて協議しながら進めていくということであれば、町長の選挙期間も関係なく、町長が誰であっても基本的な方針は変わらないというニュアンスで受け取れた。
- 今中町長 議会でも話したが、町長が変わったからといって、大きく教育方針が変わるということはおかしい。教育というのは、しっかりと長くやっていくというのが基本であると考え。まず、「規範意識の低下」、「体力の低下」、「学力の低下」について、どこに問題点があるのかを探って、手立てとして講じていくということをもとめ上げることが筋であると考え。また、統計的なデータに基づいて考えていく必要がある。ひとり親の子ども、両親と住んでいる子ども、両親と祖父母と住んでいる子どもを「規範意識の低下」、「体力の低下」、「学力の低下」この3つをそれぞれの形として調査し、比べてみて、それぞれにどういった補い方を教育、学校、地域、行政ができるのかを「教育大綱」に盛り込んでいきたい。
- 事務局 夏休みの期間中にいくつかのデータをまとめて、9月には提出できるように進めている。
- 松浦教育長 7月10日開催の県の教育サミットに参加し、その内容をまとめたので報告したいと思う。学校教育はもちろんのこと、家庭教育、社会教育、生涯学習教育等の大人の役割、すなわち大人がどう関わっていくのかという点について、しっかりと判断していかなければいけないと感じた。
- 学力の格差については、家庭の貧困、所得の格差＝塾に通える子、通えない子となっていて、大学に通える、通えないということも、勉強ができる子、できない子に関わらず、家庭がどれだけ裕福かということで教育環境が変わってくるというのが今の日本の教育であるが、その部分を抜本的に変えていこうというのが国の施策に盛り込まれている。
- 教員の意識改革とパーソナルマネジメント（校長のマネジメント）が必要で、どれだけ学校を引っ張っていくかという資質にも関わってくる。
- 県の総合教育会議と市町村の総合教育会議の橋渡しをどうしていくのか。県も大綱を策定するのに現在思案中であるが、大綱には「参酌」と書いてある。すなわち、いろいろな良いところを取ってきて、上牧町独自の大綱は作りなさいと謳っているが、中身のあるものにしないといけない、上辺だけのものにならないようにするというのが大きな課題となってくる。
- 学ぶべき中身を明確にする。地域で学ぶべき教育は学力だけではない。それに偏りがあって、規範意識の向上やオリジナル的な教育が必要となってくる。
- 体力の向上についても、何のために必要なのか、アンケートデータ分析、運動が好きになる具体的な取り組みや切り込みが必要。焦点を絞ってスポーツにおいても上牧町独自の強みを作らないといけない。
- 今中町長 町は誰に何を補うのか、その補いを見つけるためにいろんなデータを駆使して調べていかないといけない。教育やスポーツを通じて感情をコントロール

できる理性のはたらく子どもを育てるというのが大事。

自由に育てる＝放置、放棄という履き違えをし、責任転嫁をしている家庭、親が多くなってきているのではないか、そういう子どもをどう育てていくか。王寺町がラジオ体操を復活させている。たかがラジオ体操だがお年寄りと子どものコミュニケーションの場となりそこに親が加わることでコミュニティが生まれる。人のふれあいの小さな積み重ねが大事。

松浦教育長 塾に行く率について奈良県は高水準。よくできる子を育成しても大都市に流出していく。

東谷委員 学力は中間層を伸ばすことで、数値的な部分は改善できる。学力向上に注力するのも大事だが、家庭での教育と並行しながら、規範性、学力、体力においてバランスのいい心の豊かな子どもを育てないといけない。

宮城委員 共働き、ひとり親で低所得のため仕事優先で子育てが行き届きにくい家庭に対し、町としてどのように補ってやれるか。

松浦教育長 上牧町で少し自慢できるのは、上牧第二小学校において行っている。ペガサス教室の評判がいい。方向性としてはこのやり方で進めていきたいと考えている。

閉 会